

告 辞

桜の花がほころび、暖かい風に本格的な春の到来を感じさせる本日、新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。佛教大学の教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。また、本日まで、新入生お一人おひとりの成長を支えてこられた保護者やご家族の方々、関係者の皆さまに、心からお喜び申し上げます。

さて、本日より皆さんは大学生、大学院生、別科（仏教専修）生として、それぞれ新しい環境に身を置き、新たなステージでの学びをスタートすることになります。佛教大学は、建学の理念である仏教精神を根底に、これまで、自分を大切にし、他者をも大切にできる人を社会に送り出してまいりました。その仏教精神とは、本学においては仏教を開かれた釈尊と浄土宗を開かれた法然上人に共通の生き方と考え方を指します。

釈尊は、私たちの心のなかにある問題、すなわち煩惱の存在に気づき、それを捨てて生きることが教え、こだわりから離れることの大切さを説かれました。

一方、法然上人の教えには「還愚（げんぐ）」という考えがあります。それは本当の自分を正しく認め、その自分にできることをしっかり携えて、未来に向かって着実に歩いていくことです。いずれも、目の前に起こる現実を正しく見据え、自分のなすべきことをしっかりと行っていくことに他なりません。

佛教大学で学ぶ皆さんは、それぞれの学びの過程で仏教精神に触れ、それを身に付け、世の中の変化に柔軟に対応できる姿へと変身し、本学を巣立っていく頃には、自分のできることを手に入れ、それを携えて、自信をもって希望の未来に歩いて行ける人になっていることでしょう。

ところで、佛教大学の学生となるに際し、仏教精神とともに皆さんにぜひ心がけていただきたいことがあります。それは「他者を尊重する」ことです。私たちはこの世界を、自分一人だけで生きているわけではありません。いろいろな立場の他者と関わり、その関係性の中で生きています。だからこそ自分のことだけを考え、気ままに振る舞うのではなく、他者を気遣い、他者を尊敬し重んずる心で接し、互いに補い合い、協力しあうことで、より良き世界を築いていくことができると考えます。誰にも得意、不得意があり、長所や短所があることを相互に理解し、他者を尊重することができれば、多くの人を傷つける戦争などを引き起こすこともなくなるでしょう。本学は仏教精神に基づき、人類福祉の増進に貢献することを使命として活動しています。新入生の皆さんには、是非とも、本学における学びの中で、「他者を尊重する」ところを身に着けていただきたいと思います。

一方、本年1月1日、能登半島を襲った地震は、私たちが当たり前のように思い描いていた正月の姿を全く違ったものへと変えました。今回の地震により命を落とされた方々に心からお悔やみ申し上げます。また被災され、今なお苦しい状況下での生活を余儀なくされているすべての方々に心からお見舞い申し上げます。3月11日には東日本大震災から13年が経過しました。あれだけの災害を経験していながら、私たちはまだ自然災害への十分な備えや対応ができていないことを、改めて痛切に感じています。繰り返し発生する災害を教訓とし、そこでの経験から学ぶことの大切さを忘れずに、現実や困難に向き合いながら、復興に向けての取り組みを続けていかなければなりません。

また、今、頻発する気象災害の要因の一つとなっている地球温暖化に歯止めをかけることが必要となっています。本学はこの重要性を認識し、カーボンニュートラル(脱炭素)を目指した取り組みとして、エコキャンパスの実現を地域社会の方たちと一緒に進めています。これら社会貢献活動への参画も、大学における学びの一環として、社会人に向けた重要な歩みとなるものであり、是非とも学生時代に取り組んでいただきたいと思います。大学で学べる環境にあることに感謝し、真摯に自分と向き合い、新たな学生生活の中で、他者への尊重、平和の意義、社会への貢献などを学びつつ、自分がやるべきこと、自分にできることについて、しっかり考えていただきたいと願います。

さて、本日入学された皆さんは、お一人おひとり、佛教大学の学びを通じて手に入れたいこと、経験してみたいこと、叶えたい夢や希望を、それぞれに持って今この場におられることと思います。大学や大学院生などの新たな立場に身をおくことに不安を感じている方もいるかもしれません。でも、皆さんは一人ではありません。皆さんの周りには同じ立場の学友もいますし、私たち教職員も皆さんの学びを常に支援しております。どうかそれぞれの夢や目標の達成に向けて、学生生活を愉しみながら、本学における学びを進めてください。

そして、皆さんは本学での様々な学びと体験を経て、着実に成長し変身していくものと信じます。その姿をみて、きっとご家族や友人など、皆さんをとりまく人たちは驚かれることでしょう。皆さんの成長と変身が、周囲の人たちにも影響を及ぼし、皆さんを中心として社会が変わっていくことに繋がります。そのようにして、皆さんが社会の中で活躍することのできる力を身につけることができるように、私たち佛教大学の教職員一同は、皆さんの学びと学生生活を応援し、支援してまいります。

皆さんの入学を心から祝福し、告辞といたします。
改めまして、ご入学おめでとうございます。

令和6年4月1日

佛教大学長 伊藤 真宏